

教育経済学研究論文執筆ガイドライン

本ガイドラインは、下関市立大学が発行する『教育経済学研究』（以下「本誌」といいます）への論文執筆に関する必要事項を定めるものです。

1. フォーマットの使用について

本誌への投稿を希望される方は、教育経済学研究編集事務局（以下「編集事務局」といいます）が定めた所定のフォーマットを使用し、本ガイドラインに従って原稿を執筆してください。

所定の様式に適合していないと編集事務局が判断した論文については、受理いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

2. 文字フォントについて

本誌への投稿を希望する方は、以下のフォントを使用して、原稿を作成するようにしてください。表や図、脚注など体裁上やむを得ない場合に限り、最小 6 ポイントまでの縮小を認めます。ただし、可読性を損なわない範囲でご使用ください。

(1) 論文タイトル

和文：MS ゴシック、16pt、中央揃え（副題 12pt）

英文：Times New Roman 16pt、中央揃え

(2) 著者名

和文：MS 明朝、14pt、中央揃え

英文：Times New Roman、14pt、中央揃え

(3) 所属

和文：MS 明朝、12pt、中央揃え

英文：Times New Roman、12pt、中央揃え

(4) 章題見出し

和文：MS ゴシック、10.5pt、太字

英文：Century、10.5pt、太字

(5) 要旨・本文

和文：MS 明朝、10.5pt、両端揃え

英文：Century、10.5pt、両端揃え

(6) 注（一覧）

和文：MS 明朝、9pt、両端揃え

英文：Times New Roman、9pt、両端揃え

(7) 引用・参考文献（一覧）

和文：MS 明朝、9pt、両端揃え

英文：Times New Roman、9pt、両端揃え

3. 原稿の構成

- (1) タイトル
- (2) 著者名・所属
- (3) 要旨
- (4) キーワード（和文・英文）※両方とも記入が必須
- (5) 本文
- (6) 謝辞・利益相反（必要に応じて記入）
- (7) 注（必要に応じて記入）
- (8) 引用・参考文献一覧

4. 写真・図表について

- (1) 写真および図表の整理番号は、通し番号としてください。各図表には、「表 1」「表 2」…「図 1」「図 2」…のように番号を付し、必ずキャプション（タイトル）を添えてください。なお、表のキャプションは表の上部、図のキャプションは図の下部に配置してください。

- (2) 他の出版物に掲載されている図表を使用する場合は、必ず掲載許諾を取得したうえで、通し番号・キャプション・出典を明記してください。

出典の記載例は以下のとおりです：

・表 1 xxx（〇〇著、〇〇出版、p. 54 の図〇より転載）

・図 1 ooo（〇〇著、〇〇出版、p. 21 の図〇より転載）

なお、「p.」の後には半角スペースを入れてください（例：p. 54）。

- (3) 図表・写真について触れている本文の当該箇所には、（表 1）（図 1）…と入れてください。

- (4) 写真および図版データは、編集・出版の過程でモノクロ（白黒）に変換されます。そのため、投稿時点でモノクロ出力においても内容の判別が可能な状態でご準備ください。

5. 注について

- (1) 注は引用文献の記載を目的とするものではなく、本文に対する補足的な説明や解説を記述するためのものとします。
- (2) 注は本文中の該当箇所の右肩に通し番号（上付き・半かっこ）を付して示してください。その注に対応する文章リストは、本文末尾に一括して記載してください。

- (3) なお、Microsoft Word の注釈機能（脚注や文末注）を使用すると、編集やレイアウト調整が困難になる場合がありますので、必ず本ガイドラインに定める方法に従ってください。

6. 引用方法

(1) 長文引用（3 行以上のブロック引用）

- ① 長文引用（3 行以上のブロック引用）を行う場合は、前後に 1 行分の空行を挿入し、引用部分の冒頭は 1 字分インデントして記載してください。
- ② 引用文中に引用者による補足語句や注記を挿入する場合は、〔 〕（隅付きかっこ）を用いてください。また、引用文中で中略を行う場合も、同様に [……] を用いて省略箇所を明示してください。
- ③ 引用文の出典は、注（本文末）に記載するのではなく、本文中の引用直後にかっこ書きで記載してください。形式は以下のとおりです。
 - ・日本語引用の場合：（著者，西暦出版年：頁数）
例：（山田，2019: 567）
 - ・その他の言語の場合（例：英語）：（Author, Publication Year: Page Number）
例：（Ellmann, 2022: 234）

(2) 本文中における引用の出典の明記

本文中における引用・参考文献の出所は、通し番号を使用せず、著者名（西暦出版年）の形式で記載してください。以下に例を示します。

例：大川（1995）は…。

例：Aho (1972) は…。

例：…と主張している（大川，1995）。

例：…と主張している（Aho, 1972）。

(3) 複数著者の表記方法

- ① 著者が 2 名の場合は、日本語文献では「&」、英語文献では“&”を用いて著者名を接続してください。
 - 例：大川&藤田（1995）は…
 - 例：Aho & Ullman (1972) は…
 - 例：…と主張している（大川&藤田，1995）。
 - 例：…と主張している（Aho & Ullman, 1972）。
- ② 著者が 3 名以上の場合は、日本語文献は「著者ら（西暦出版年）」、英語文献は“Author et al. (Publication Year)”の形式を使用してください。

例：佐藤ら（2001）は…。

例：Smith et al. (2003) は…。

例：…と主張している（佐藤ら，2001）。

例：…（Smith et al., 2003）

(4) 同一年に出版された同一著者の複数文献

出版年の後ろにアルファベット（a, b, c…）を付して区別してください。

例：大川（1995a, 1995b）は…

例：Aho (1972a, 1972b) は…

例：…と主張している（大川，1995a, 1995b）。

例：…と主張している（Aho, 1972a, 1972b）。

(5) 文中の句読点と注記・出典の位置

注番号や引用出典をカッコ書きで示す場合は、句読点の前に配置してください。

例：…と主張している（山田，2001）。

(6) 引用・参考文献リストの記載について

- ① 引用・参考文献は、論文末尾に一覧として記載し、本文中で実際に引用または言及された文献のみを含めてください。本文中に登場しない文献を引用文献リストに記載することは認められません。なお、補足的な文献情報を提示したい場合は、本文の注の中で書誌情報を明示してください。

② 引用・参考文献の並べ方

- ・和文 → 著者の姓のあいうえお順
- ・英文 → 著者の姓のアルファベット順

- ③ 同一著者による同一年の文献が複数ある場合は、アルファベット付き（a, b, c…）で区別してください。

例：Smith, J. (2005a) / Smith, J. (2005b)

- ④ 外国語文献は、原語で記載し、邦訳がある場合は、カッコ内に邦訳を併記してください。

⑤ 副題の表記方法：

- ・日本語 → ダッシュ（—）
- ・英語 → コロン（:）

例：『近代国家の形成—政治と法の比較史』

The Formation of the Modern State: A Comparative History of Politics and Law

- ⑥ 引用・参考文献リスト中に URL のハイパーリンク（青文字リンク表示）は含めないでください。DOI がある文献には、該当文献の最下行、文末に DOI を記載します。

例 : Smith, J. (2021). Organizational behavior in digital environments. *Journal of Management Studies*, 45(3), 234–250. <https://doi.org/10.1111/joms.12345>

引用文献リストの作成例

【論文／論集・アンソロジー所収の論文】

書き方 : 著者名 (発行年). 論文タイトル. 雑誌名, 巻 (号), ページ. doi

著者が複数名いる場合、2名の場合は「&」で接続し、3名以上の場合は各著者名を「,」で区切り、最後の著者の前に「&」を加えてください。

例 :

- 1) 下関太郎 (2022). 下関市立大学研究論文の作成テンプレート. 下関市立大学研究論文, 1(1), 1–10. doi : ○○
- 2) Higginbotham, G. & Reid, J. (2019). The lexical sophistication of second language learners' academic essays, *Journal of English for Academic Purposes*, 37(1), 127–140. doi : ○○ (英文雑誌名はイタリック体)
- 3) 下関太郎, 下関次郎 & 下関三郎 (2021). 論文タイトル. *Research Journal SCU*, 1(1), 21–30. doi: ○○

【著作物／翻訳書】

書き方 : 著者名 (発行年). 書籍名. 出版社.

著者名 (発行年). 書籍名. 出版社 (訳者名訳『翻訳語書籍名』. 出版社名, 出版年).

- 4) 下関太郎 (2021). 書籍名, 出版社.
- 5) E・ヘミングウェイ、W・S・モームほか著, 石塚久郎監訳 (2016). 『病短編選集』平凡社.
- 6) Kyle, K. (2019). *Measuring Lexical Richness (The Routledge Handbook of Vocabulary Studies) 1st ed.* Routledge Press, p. 23. (英文書名はイタリック体)

【学会】

書き方 : 著者名 (発行年). 論文タイトル. 学会名, 開催地 (都市、国), 開催期間. ページ

- 1) 下関太郎 (1990). 因子分析における統計的推測 : 最近の発展. ○○学会第○○回年次大会, 沖縄コンベンションセンター, 3月13日–17日, 22–30.
- 2) Wang, Y., Yi, J. & Bailey, J. (2019). Symmetric Cross Entropy For Robust Learning With Noisy Labels. In *Proceedings of 2019 IEEE International Conference on Computer Vision*, Seoul, Korea, oct.37–nov.2, 322–330. (学会名はイタリック体)

【Web 資料】

書き方 : 著者名・組織名 (発行年). 資料タイトル. URL (最終閲覧日 : ○年○月○日)

- 1) 総務省 (2025). 日本放送協会放送受信料免除基準の変更の認可. https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01ryutsu07_02000314.html (最終閲覧日 : 2025年7月23日) (URLのハイパーリンク・青文字リンク表示を削除し、プレーンテキストで記載してください。)
- 2) MEXT. (2000). Japanese Government Policies in Education, Science, Sports and Culture. https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11293659/www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpae200001/index.html (最終閲覧日 : 2025年7月23日)

7. その他の表記方法に関する注意事項

- (1) 原則として、横書き・新仮名遣い・新字体を使用してください。
- (2) 使用する漢字は常用漢字を中心とし、極端に難解な漢字の使用は避けてください。
- (3) 句読点は「、(テン)」および「。(マル)」を併用してください。文章中でのクエスチョンマーク「？」の使用は不可とします。本文中に使用するかっこ類(「、『』、() など) は、すべて全角または半角のいずれかに統一してください。
- (4) 本文は段落構成とし、各段落の冒頭(第1行目)は、1字下げて書き始めてください。
- (5) 表記の揺れが生じないように、論文全体を通して統一された形で記載してください。